

IV 仕事と生活(ワークライフバランス)

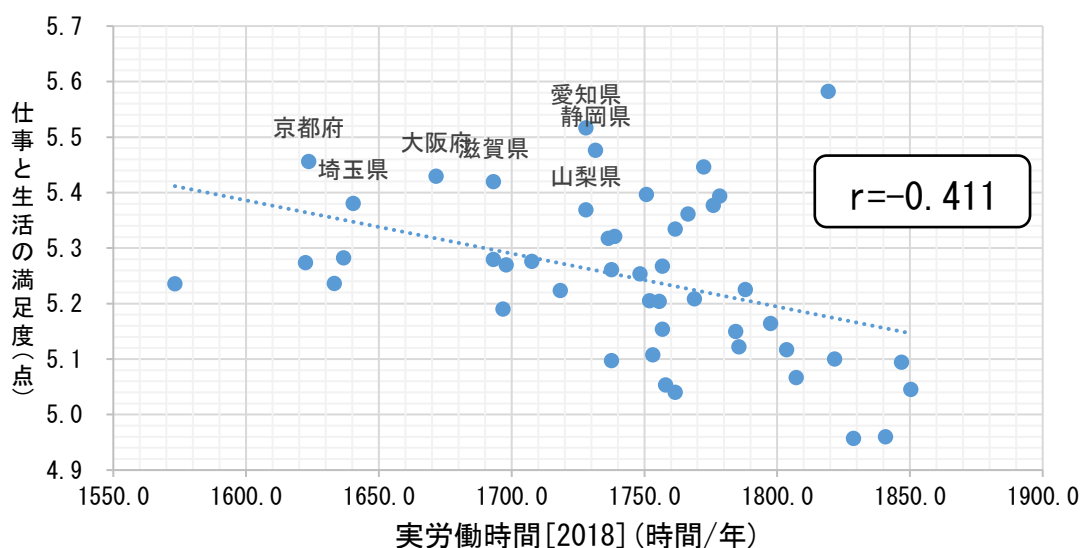
1. ダッシュボード指標の妥当性の検証

2019年7月に公表したダッシュボードでは、ワークライフバランスに関する指標として「実労働時間(一般労働者)」、「年次有給休暇取得率」「睡眠時間(平日)」を採用した。ダッシュボード指標の妥当性を検証するため、これらの指標その他の関連指標について、「仕事と生活」の満足度(平均値)の間の関係を分析していく。

①労働時間に関する指標(実労働時間等)

2019年7月に、ダッシュボード指標として「実労働時間(一般労働者)」を選定したのは、(i)2019年調査の個票分析において、正規雇用の平日の「義務的な時間(仕事・家事等)」が7時間以上の人と、7時間未満の人で、「仕事と生活」の満足度で有意な差があったこと、(ii)2019年調査において「仕事と生活(ワークライフバランス)に関する現在の満足や不満に大きく影響しているものはどれか」という質問への回答の上位(2位)が「労働時間」(38.1%)だったことから選定されたものである。

図表 1-4-1 都道府県別 仕事と生活の満足度と
実労働時間の相関



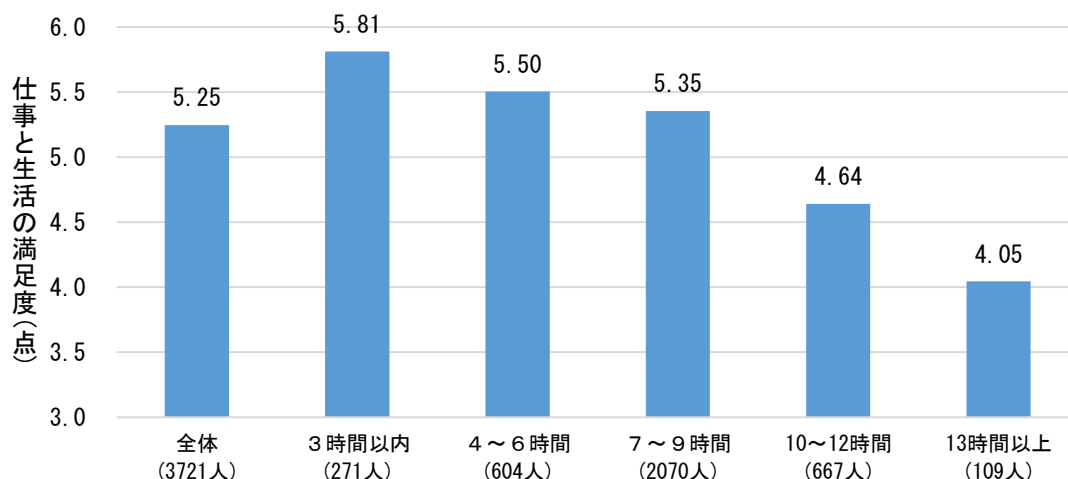
(出典) 厚生労働省 毎月勤労統計調査

内閣府 満足度・生活の質に関する調査(2019年調査・2020年調査)

今回、都道府県別の「仕事と生活」の満足度と、一人当たり実労働時間との関係を見ると、相関係数が-0.411 と一定の相関を示している。ダッシュボードに採用した実労働時間(一般労働者)は、「仕事と生活」の満足度に関係する指標であるということが改めて確認できた。

次に、個票分析によって労働時間と「仕事と生活」の満足度の関係を見ていく。男女計では1日当たり労働時間が短いほど満足度が高い関係にあり、1日当たり労働時間3時間以内では満足度が5.81、労働時間13時間以上では4.05と大きな差がある。このように、個票分析の結果も、ダッシュボード指標としての「実労働時間(一般労働者)」の有効性を示唆している。

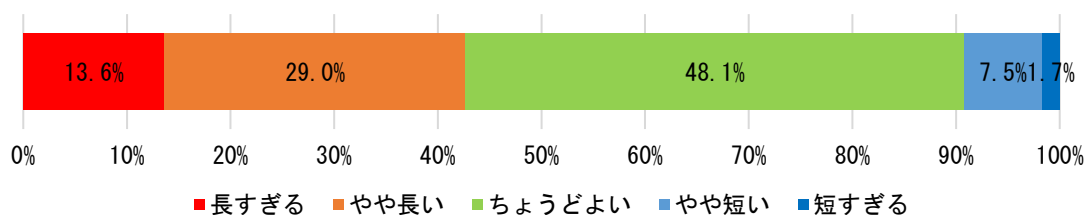
**図表 1-4-2 労働時間別の仕事と生活の満足度
(就業者全体(学生を除く))**



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2020年調査)

一方、労働時間は長すぎず、短すぎずというバランスの視点も重要である。働きたい時間との比較で、労働時間が「長すぎる」又は「やや長い」と考えているのは42.6%であり、「ちょうどよい」が48.1%、「やや短い」や「短すぎる」も9.2%いる。これは、労働時間が短いと十分な所得が得られない、働き甲斐に欠ける等と感じる人がいる可能性が考えられる。

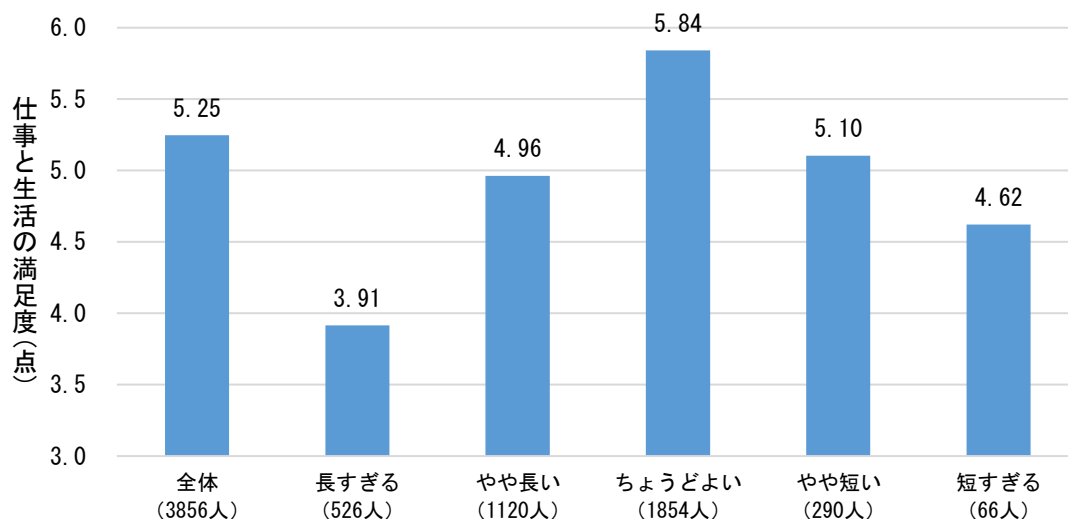
図表 1-4-3 労働時間の評価(働きたい時間との比較)



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2020年調査)

労働時間の感じ方ごとに満足度をみると、「ちょうど良い」と考えている人よりも、労働時間が長い、あるいは短い、と感じている人の方が、満足度が低いことが分かる。

図表 1-4-4 自身の労働時間の感じ方と仕事と生活の満足度

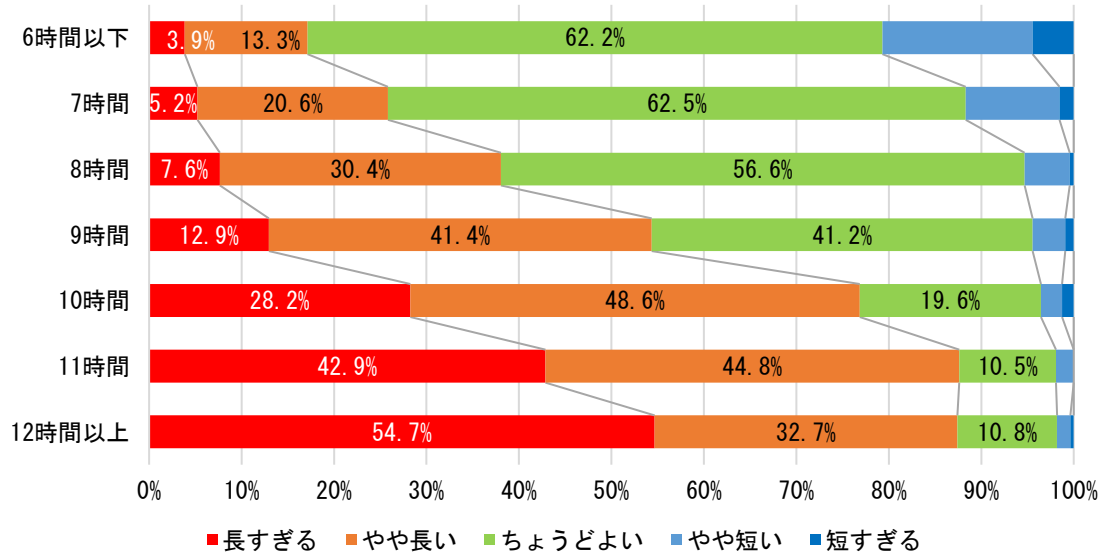


(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2020年調査)

次に、1日の平均的な労働時間別に、労働時間の感じ方や満足度をみていく。1日当たり9時間までは「ちょうど良い」割合が4割以上であるが、10時間を超えると「ちょうど良い」割合が2割未満となり、「長すぎる」「やや長すぎる」の合計が8割程度になる。また、満足度でみると、9時間以下までは満足度は比較的フラットで、労働時間7時間と9時間間の満足度の差は0.2未満である。しかし、労働時間が10時間で満足度が落ち込み、7時間と10時間の満足度の差は0.76に広がる。

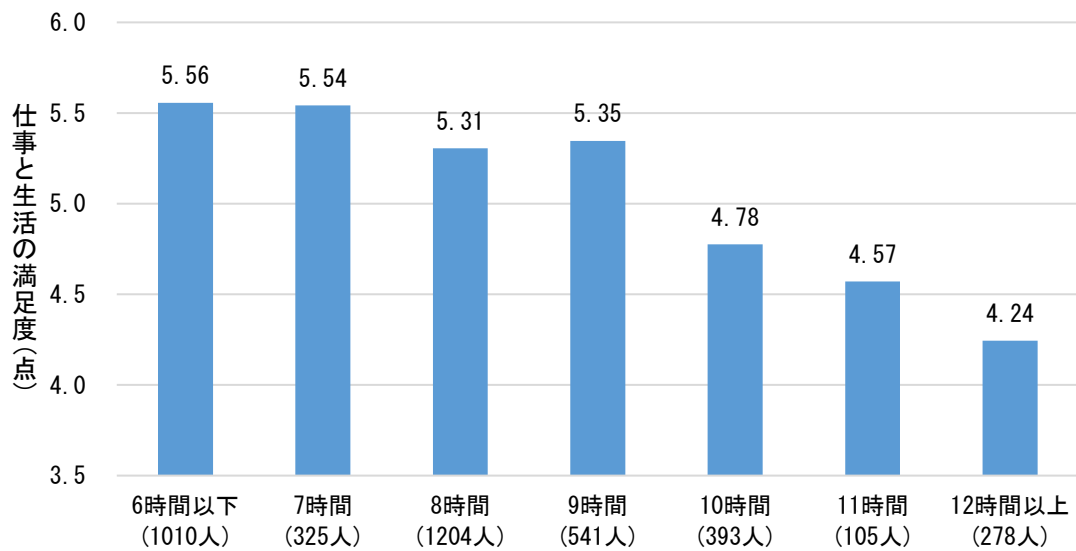
こうしたことから、世界的に長時間労働の指標として使われている週49時間以上の長時間労働が満足度を下げることが確認できたので、長時間労働者割合をダッシュボード指標として新たに採用する。なお、OECDにおいても、同様の指標を Well-being 指標のヘッドライン指標としている。

図表 1-4-5 1日の平均的な労働時間とその評価
(働きたい時間との比較)



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2020年調査)

図表 1-4-6 1日の平均的な労働時間と仕事と生活の満足度



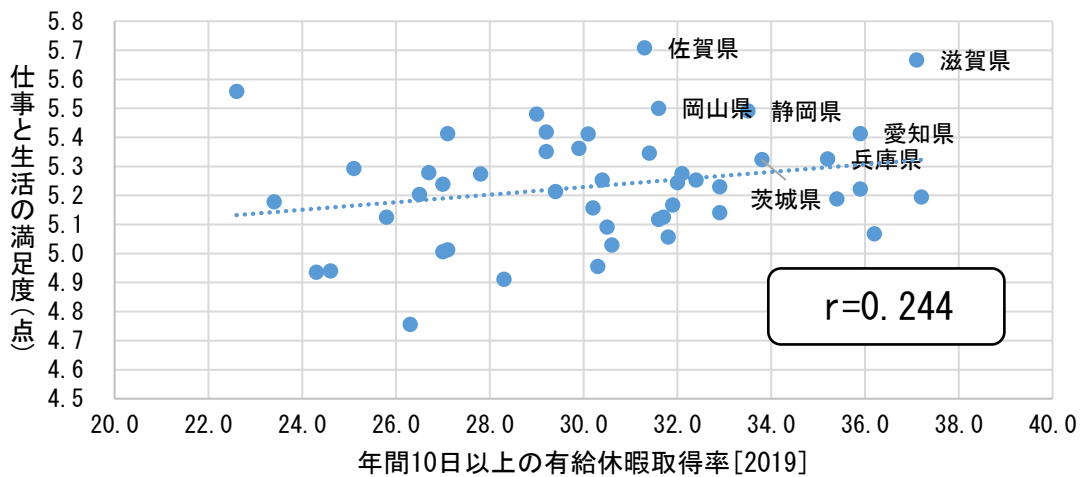
(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2020年調査)

②年次有給休暇に関する指標

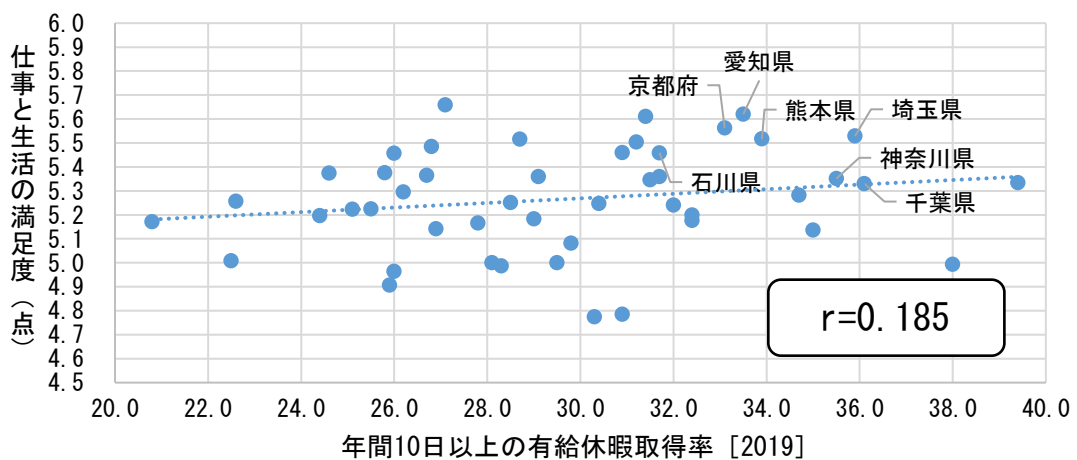
次に、都道府県別の有給休暇取得率と「仕事と生活」の満足度の関係を見ていく。ダッシュボードとして採用した厚生労働省「就労条件総合調査」の「年次有給休暇取得日数」や「年次有給休暇取得率(取得日数/付与日数)」は、都道府県別の計数が得られないため、ここでは民間統計である(一社)ストレスオフ・アライアンス「ココロの体力測定 2019」の「年間 10 日以上の有給休暇取得率」を用いる。

男性では滋賀県・愛知県、女性では埼玉県のように、10 日以上有給休暇取得率が高い都道府県では、「仕事と生活」の満足度が高い傾向にあるという緩やかな正の相関関係が確認できる。

図表 1-4-7 都道府県別 仕事と生活の満足度と有給休暇取得率の相関 (男性)



図表 1-4-8 都道府県別 仕事と生活の満足度と有給休暇の取得率の相関 (女性)

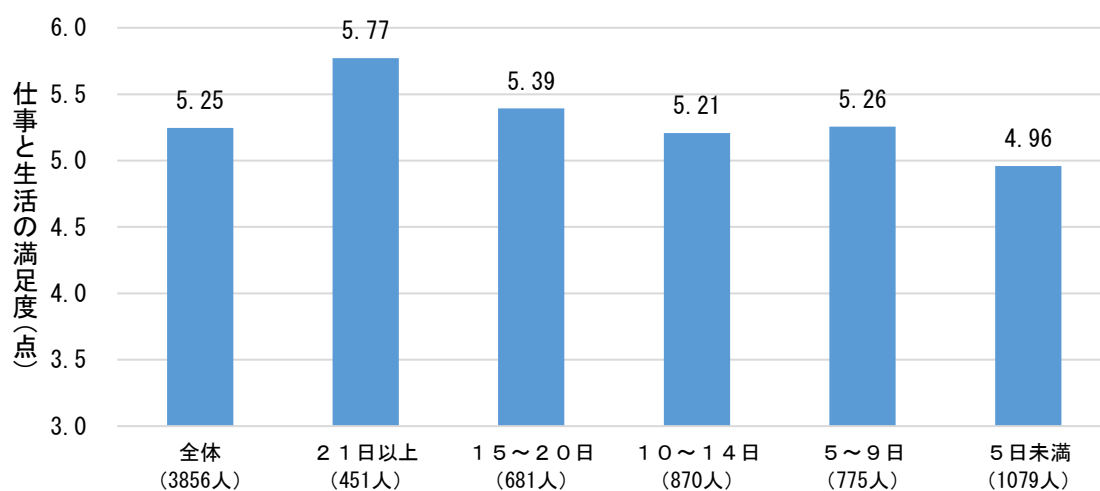


(出典) (一社) ストレスオフ・アライアンス ココロの体力測定 2019

内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019年調査・2020年調査)

次に、個票分析によって、有給休暇の年間取得日数と「仕事と生活」の満足度との関係を見ていく。年間取得日数5日未満の就業者は満足度が4.96と最も低く、21日以上では満足度が5.77と最も高いことから、有給休暇取得日数が満足度と一定の関係があり、ダッシュボード指標としての有効性が示唆される。

図表 1-4-9 有給休暇の取得日数別の仕事と生活の満足度

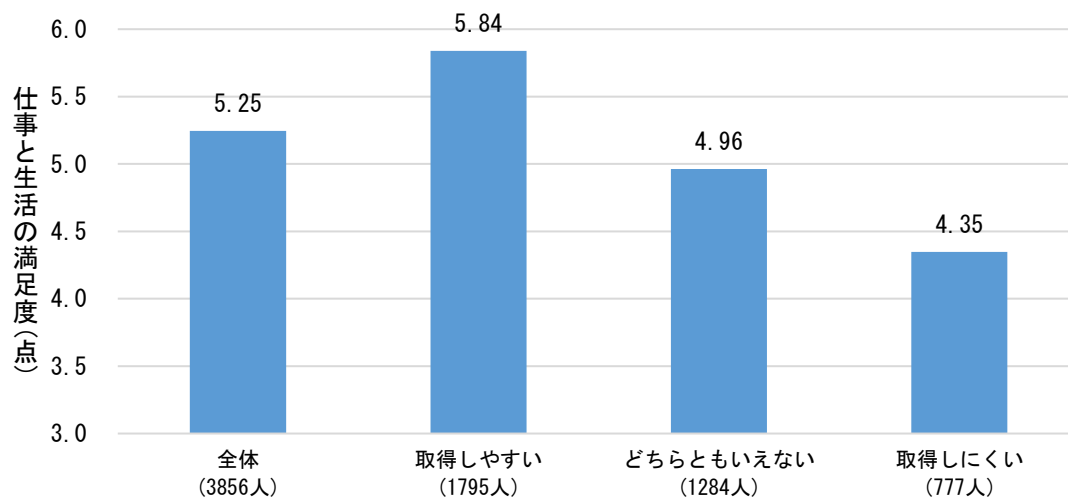


(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2020年調査)

さらに、ワークライフバランスとの関係が深い指標の例として「有給休暇の取りやすさ」についてみてみる。

2020年調査で「休暇の取得しやすさ」を質問したところ、取得しやすいと回答した人の満足度が5.84、取得しにくいと回答した人の満足度が4.35と大きな差がある。現時点では「休暇の取得しやすさ」を示す既存統計は存在しないが、仮にこうした視点の統計が継続的に入手できるようになれば、「仕事と生活」の満足度に関する有力な指標候補になり得るのではないか

図表 1-4-10 休暇の取得のしやすさ別の仕事と生活の満足度



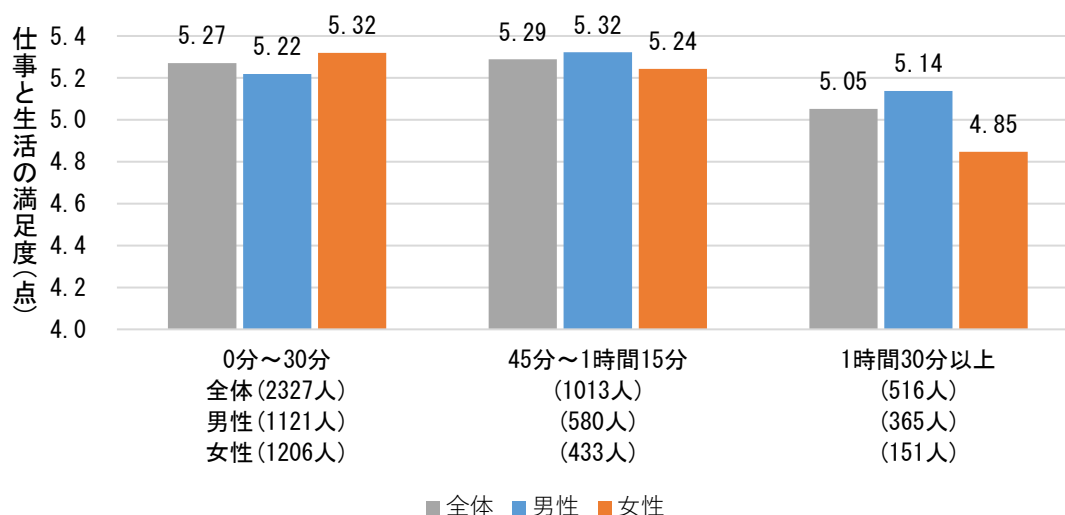
(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2020年調査)

③その他の指標

以上のほか、ダッシュボードに採用している指標として「睡眠時間」がある。この指標は2019年調査において「仕事と生活(ワークライフバランス)に関する現在の満足や不満に大きく影響しているものはどれか」という質問への回答の上位(3位)が睡眠・食事・入浴等の時間だったことから選定されたものである。しかし、都道府県別にみると、睡眠時間と「仕事と生活」の満足度は負の相関(-0.492)となっており、ダッシュボード指標から除くこととする。

次に、通勤・通学時間(有業者)と「仕事と生活」の満足度の関係を見てみる。通勤・通学時間が長くなると、生活の時間が少なくなり、ワークライフバランスが悪化する可能性があるためである。個票分析によると、通勤・通学時間が1時間30分以上になると、満足度が低下する傾向がある。特に女性の満足度は大きく落ち込むことがみてとれる。

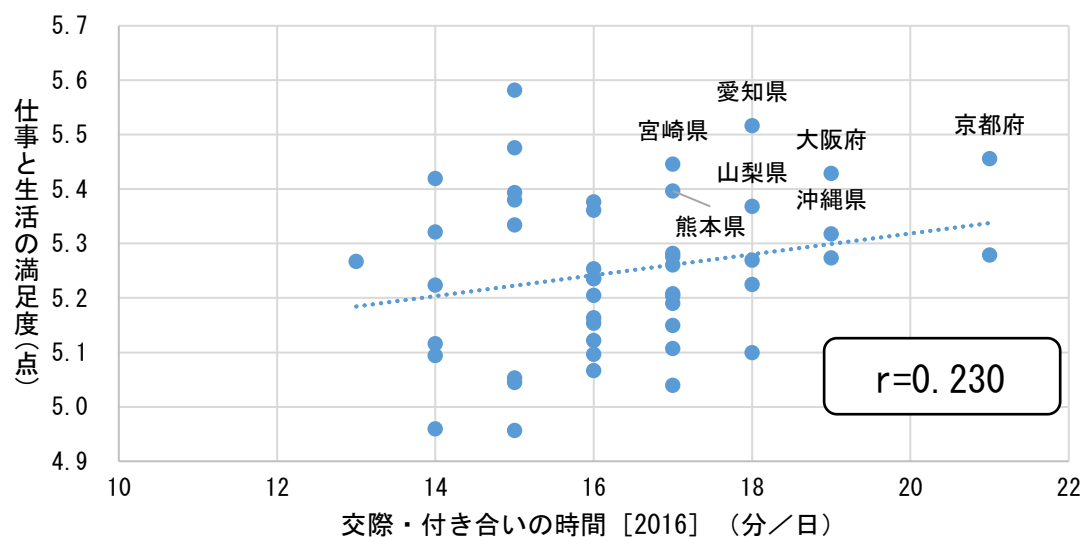
図表 1-4-11 通勤・通学時間別の仕事と生活の満足度(有業者)



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査(2020年調査)

また、交際・付き合いの時間との関係を見ると、交際・付き合いの時間が長い都道府県ほど「仕事と生活」の満足度が高いことがみてとれる。

図表 1-4-12 都道府県別 仕事と生活の満足度と
交際・付き合いの時間の相関



(出典) 総務省 社会生活基本調査
内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019年調査・2020年調査)

2. 「仕事と生活」の満足度に関する総合的な指標の作成に向けて(試行)

前節では、都道府県レベルで、「仕事と生活」の満足度と相関のある客観指標を複数確認することができ、「仕事と生活」の満足度が、実労働時間や交際・付き合い時間などと多面的な相関関係を有していることがみてとれた。そこで、複数の指標を合成することで、「仕事と生活」の満足度を客観的に示す総合的な指標を作成することを試みることにした。

総合的な指標の作成方法として、①単純合成法(各客観指標を標準化(ここでは z 値を算出)して合成)、②多変量解析法(主成分分析等による重みをつけて合成)の2つのパターンを採用した。

「仕事と生活」の満足度を表す客観指標としては、仕事の時間とプライベートの時間の両面からとらえることとし、この両面に対応する指標を選定した。なお、仕事の時間に対応する指標としては「実労働時間」、プライベートの時間に対応する指標としては「3次活動の平均時間」及び「交際・付き合いの時間」を選定している。「3次活動の平均時間」と「交際・付き合いの時間」はいずれもプライベートな時間のうち自由時間を示すものであり、前者が時間の総量、後者は自由時間の過ごし方の内容を示す。試算結果は以下のとおりである。

試算結果をみると、単純合成法、多変量解析法の相関係数の値はほぼ同じ値となっている。(0.34、0.36)

(1) 選定指標

指標	単位	調査・統計	年	分野別満足度との相関	指標の意味	備考
実労働時間(事業所規模5人以上)	時間	毎月勤労統計調査	2016	-0.34	仕事の時間	
3次活動の平均時間(男女)	分	社会生活基本調査	2016	0.13	自由時間(量)	平均時間は性比(2018年)で調整
交際・付き合いの時間	分	社会生活基本調査	2016	0.23	自由時間(質)	

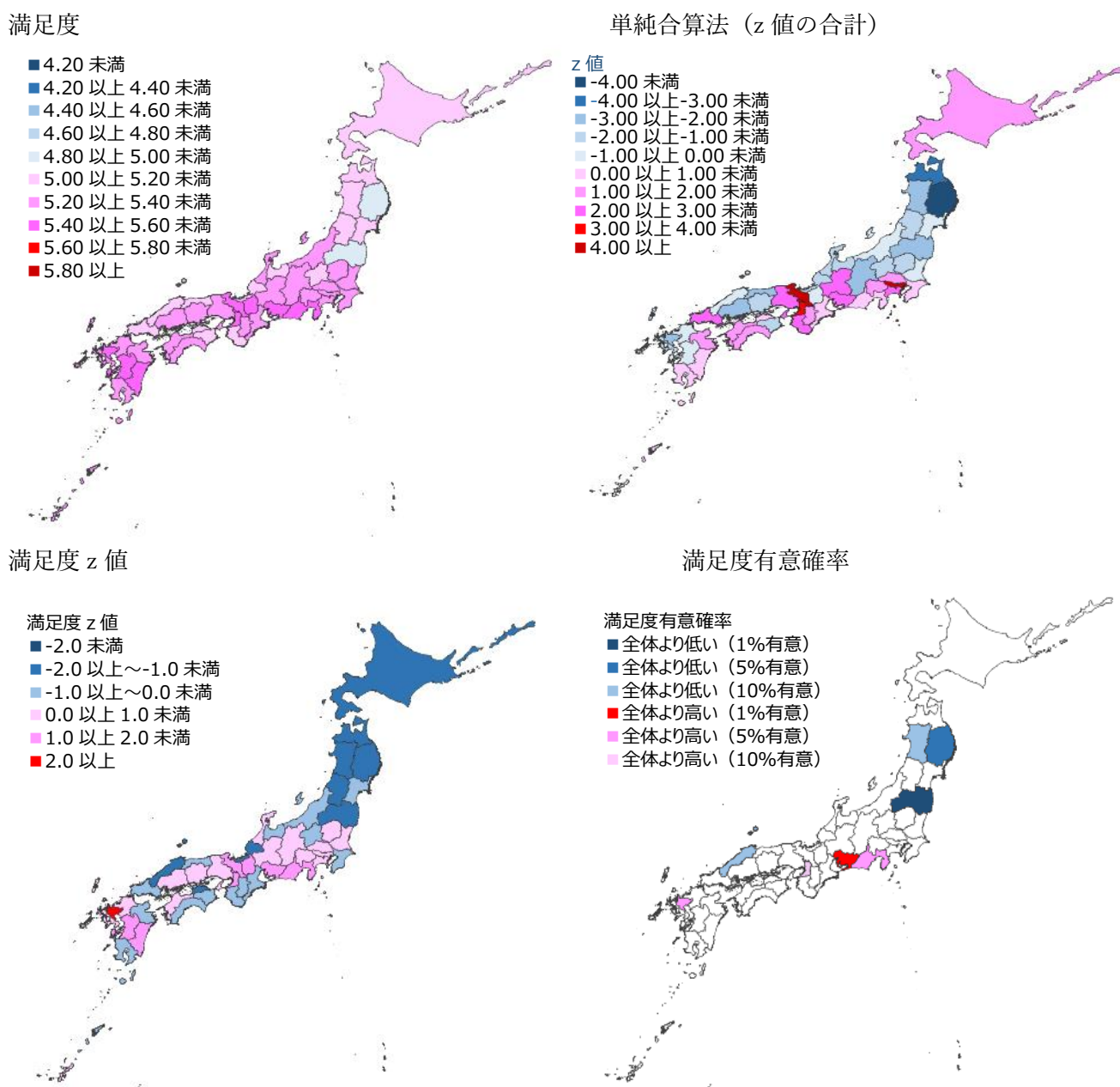
(2) 試算結果

客観指標	分野別満足度との相関係数	
	単純合成法	主成分分析第一主成分
-①実労働時間(事業所規模5人以上) +②3次活動の平均時間(男)(女)※人口性比:2018で計算 +③交際・付き合いの時間	0.34	0.36

(3) 都道府県地図

下の図は、満足度(満足度調査による計測値の平均値)、標準化した満足度(z 値)、単純合成法(各客観指標の z 値の合成)、満足度の有意確率を日本地図に色付けしたものである。満足度の地図をみると、全体は薄い桃色のグラデーションとなっているが、「仕事と生活」の満足度が5以下の県も一部みられる。また、単純合成法と満足度の z 値との比較では、同系統の配色を示す地域と異なる配色を示す地域がみられた。前項の相関係数はこのような状況を反映したものとなっている。加えて、各県の満足度を全体と比べた場合に、統計的有意水準を 10%とした場合でも8県であった。

図表 1-4-13 都道府県地図



V 健康状態

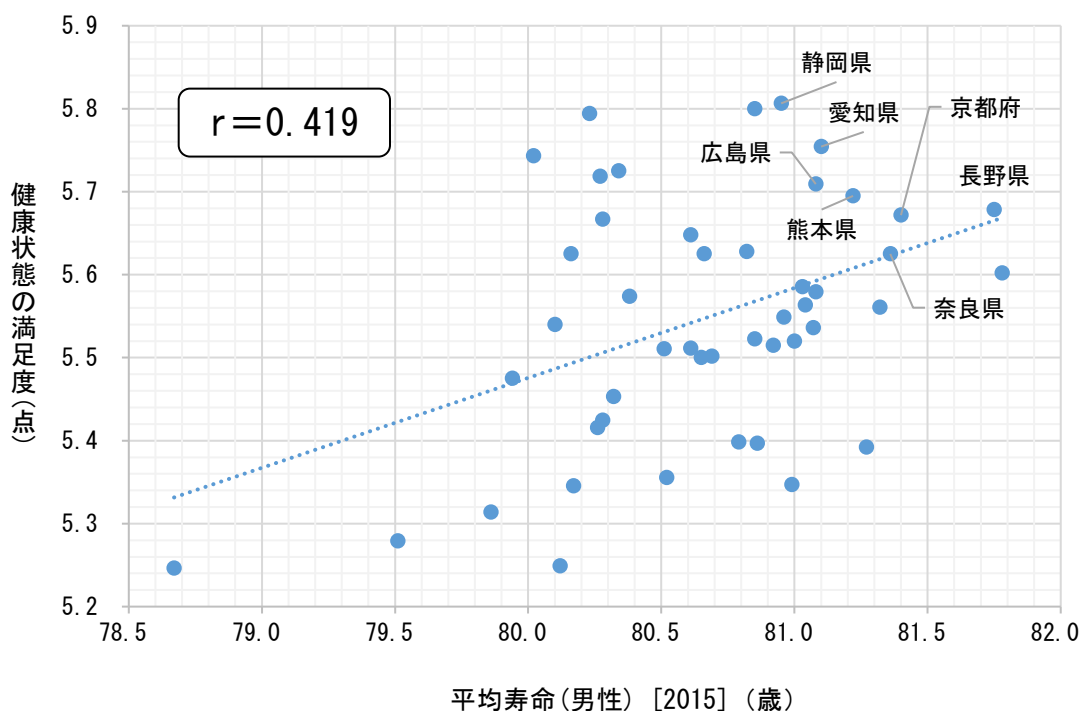
1. ダッシュボード指標の妥当性の検証

2019年7月に公表したダッシュボードでは、健康状態に関する指標として「平均寿命」「健康寿命」「糖尿病が強く疑われる者の割合」「運動習慣がある者の割合」を採用した。ダッシュボード指標の妥当性を検証するため、これらの指標その他の関連指標について、「健康状態」の満足度(平均値)の間の関係を分析していく。

①平均寿命・健康寿命

都道府県別の「健康状態」の満足度と平均寿命の相関係数が男性は0.419、女性は0.343と、一定の相関が確認できる。また、健康寿命においても相関がみられることから、これは、自分の住む地域における平均寿命の長さが健康状態に関する主観的満足度に寄与している可能性も完全には否定できないが、むしろ健康に関する主観的満足度の高さ、すなわち「自分は健康である」と思う人の多い都道府県では、平均寿命が高くなるという関係にある可能性がある。平均寿命及び健康寿命は、満足度・生活の質に関するダッシュボード指標としての有効性が示唆される。

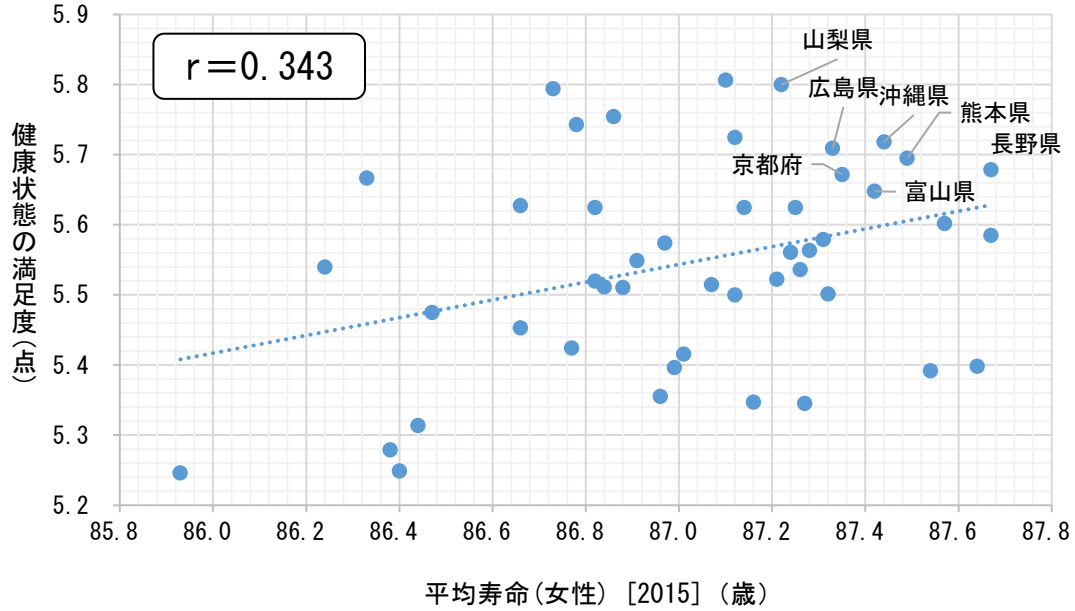
図表1-5-1 都道府県別 健康状態の満足度と平均寿命(男性)の相関



(出典) 厚生労働省 簡易生命表

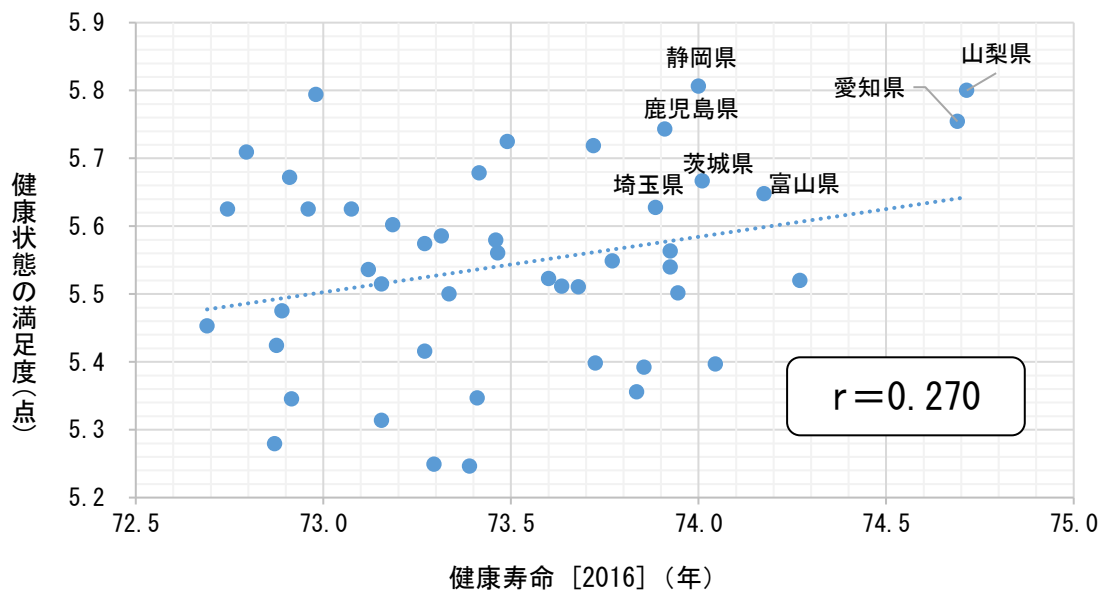
内閣府 満足度・生活の質に関する調査
(2019年調査・2020年調査)

図表 1-5-2 都道府県別 健康状態の満足度と平均寿命（女性）の相関



(出典) 厚生労働省 簡易生命表
内閣府 満足度・生活の質に関する調査
(2019年調査・2020年調査)

図表 1-5-3 都道府県別 健康状態の満足度と健康寿命の相関



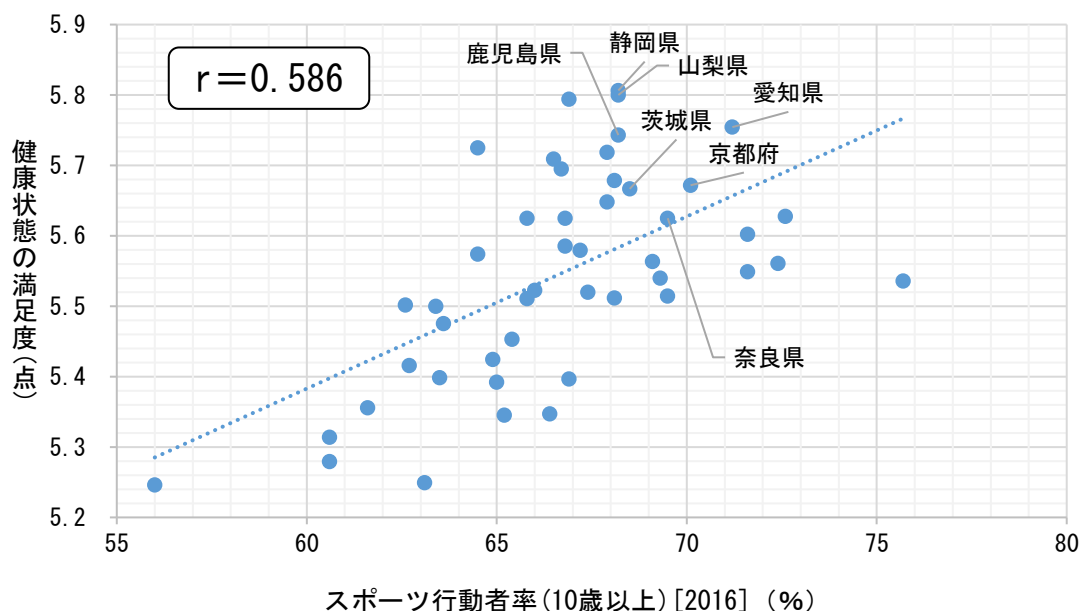
(出典) 総務省統計局 社会・人口統計体系
内閣府 満足度・生活の質に関する調査
(2019年調査・2020年調査)

②健康に関する習慣(運動習慣等)

ダッシュボードでは、厚生労働省「国民健康・栄養調査」における「運動習慣がある者の割合」を選定した。このデータは都道府県別の計数が得られないため、他の統計を用いて、運動習慣と健康状態の満足度との関係を見ていく。

まず、総務省「社会生活基礎調査」における「スポーツ行動者率」(1年の間に1度でもスポーツをした者)でみると、スポーツ行動者率の高い都道府県は健康状態の満足度が高いというやや強い相関がみられる。

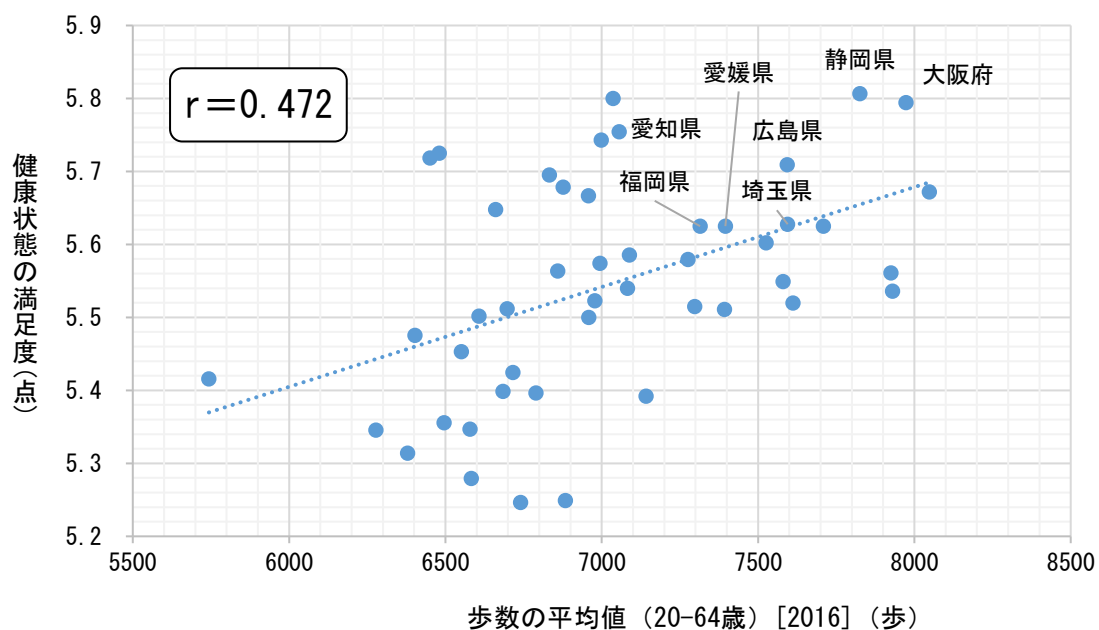
図表 1-5-4 都道府県別 健康状態の満足度と
スポーツ行動者率の相関



(出典) 総務省 社会生活基本調査
内閣府 満足度・生活の質に関する調査
(2019年調査・2020年調査)

また、1日当たりの歩数の平均値でも、一定の相関がみられる。これらは、運動習慣に関する指標の、ダッシュボード指標としての有効性を示唆している。

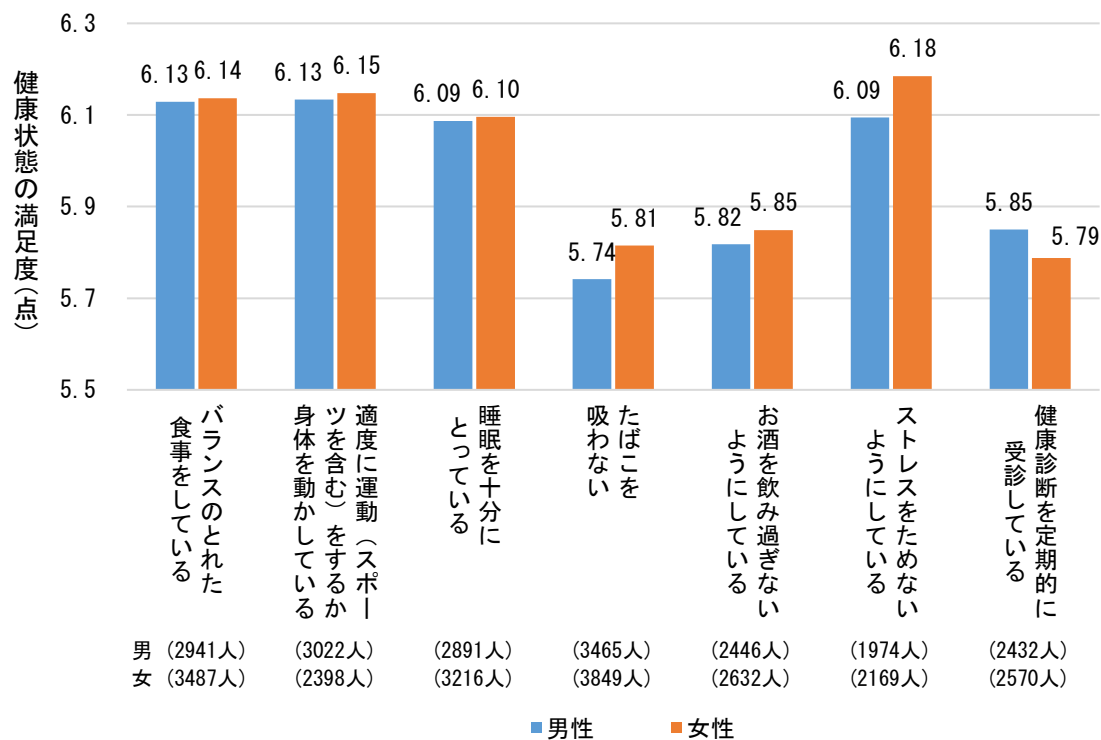
図表 1-5-5 都道府県別 健康状態の満足度と歩数の平均値の相関



(出典) 厚生労働省 国民健康・栄養調査
内閣府 満足度・生活の質に関する調査
(2019年調査・2020年調査)

一方、健康に関する様々な習慣のうち、健康状態の満足度に関係するものは運動習慣だけではない。例えば、バランスのとれた食事、ストレスをためない、十分な睡眠も、健康状態の満足度に関係していると考えられる。

図表 1-5-6 健康のために行っていることと健康状態の満足度

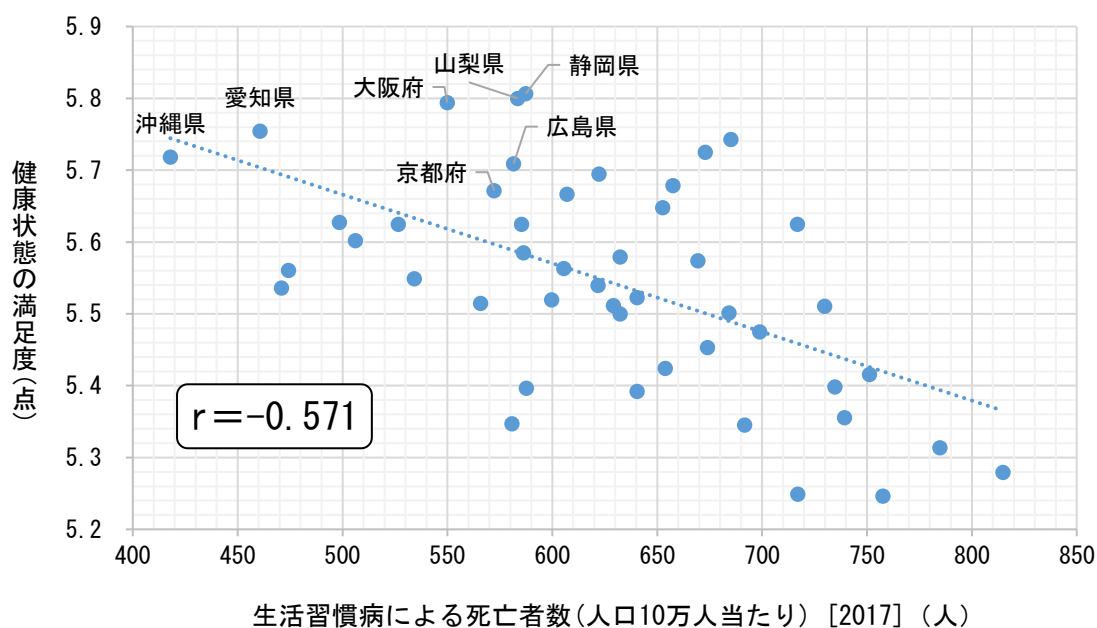


(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019年調査・2020年調査)

③生活習慣病等の健康状態に関する指標

都道府県別の生活習慣病による死亡者数と「健康状態」の満足度との関係を見ると、相関係数が-0.571 と高い負の相関を示しているため、ダッシュボード指標として新たに採用する。

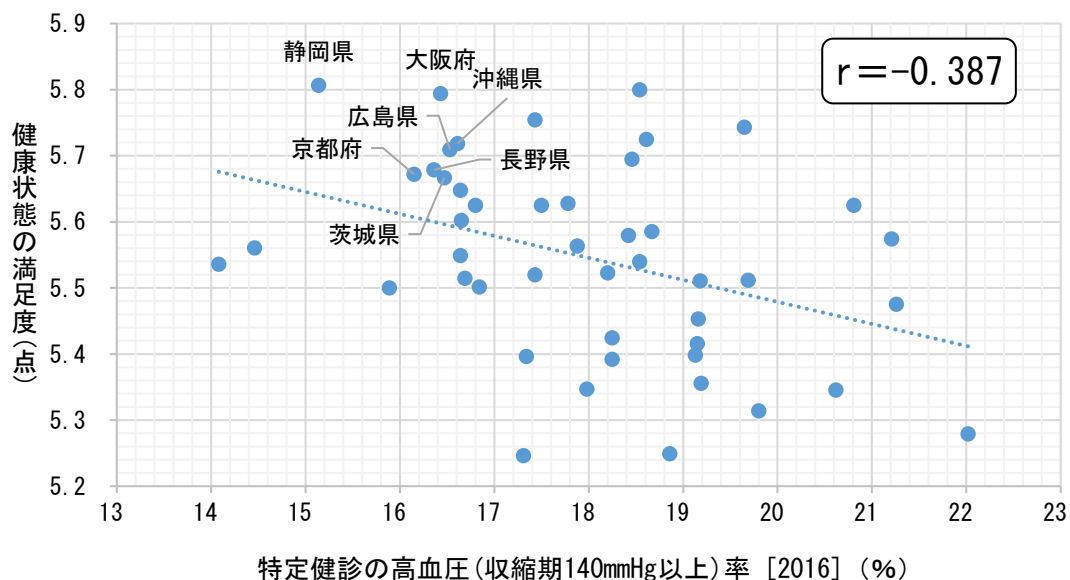
図表 1-5-7 都道府県別 健康状態の満足度と生活習慣病による死亡者数の相関



(出典) 総務省統計局 社会・人口統計体系
内閣府 満足度・生活の質に関する調査
(2019年調査・2020年調査)

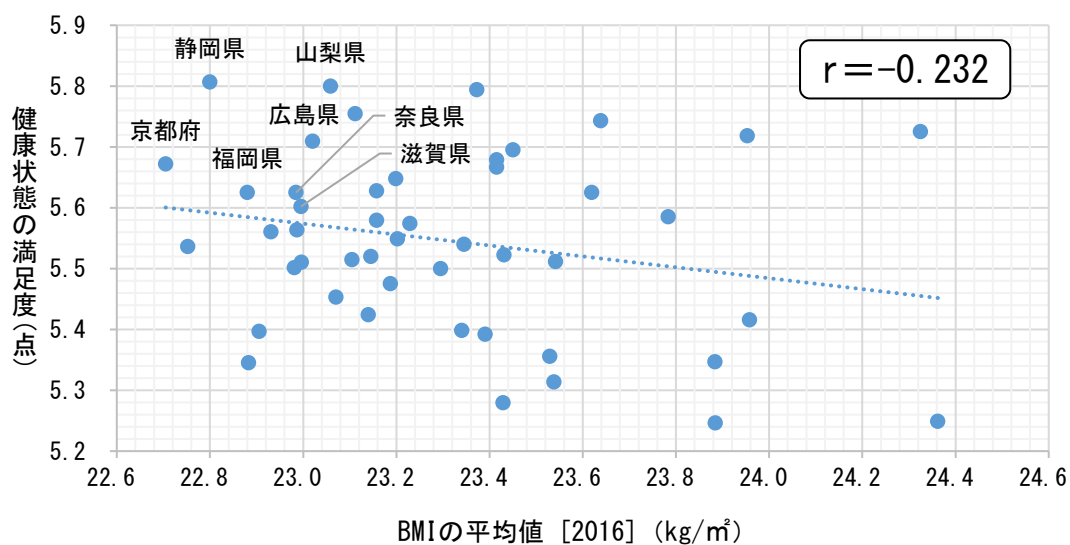
次に、高血圧やBMI値といった、人々の健康状態を表す指標と「健康状態」の満足度との関係を見ると、高血圧率が低い都道府県ほど、「健康状態」の満足度の平均値が高いこと(相関係数-0.387)、BMI値が低い都道府県ほど、「健康状態」の満足度の平均値が高いこと(相関係数-0.232)がみてとれた。

図表 1-5-8 都道府県別 健康状態の満足度と
特定健診の高血圧率の相関



(出典) 厚生労働省 第4回 NDB オープンデータ、特定健康診査の状況(都道府県別一覧)
(高血圧率 = (収縮期血圧 140mmHg 以上の者の人数) / (特定健診受診者数) により算出)
内閣府 満足度・生活の質に関する調査(2019年調査・2020年調査)

図表 1-5-9 都道府県別 健康状態の満足度と
BMIの平均値の相関

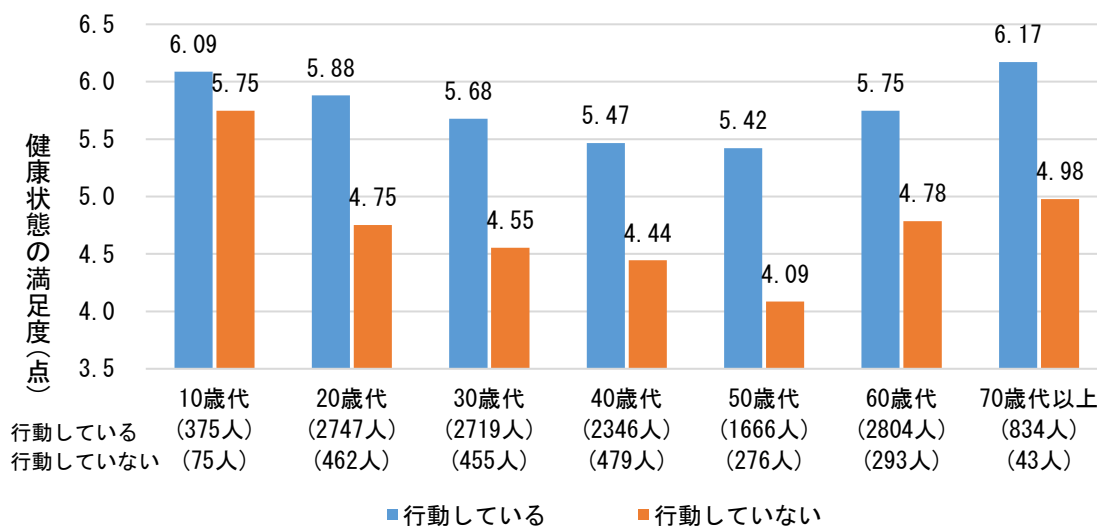


(出典) 厚生労働省 国民健康・栄養調査
内閣府 満足度・生活の質に関する調査(2019年調査・2020年調査)

<コラム> 健康のための行動

回答者が健康のために行動しているかどうかと、自身の「健康状態」の満足度との関係を見ると、男女とも行動している者の満足度が行動していない者の満足度に比べ高くなっている。年代別にみると、10歳代では両者の差は小さいが、その他の年代では1ポイント以上差があり、特に50歳代では、1.3ポイント差があるとともに、健康のために行動していない者の満足度は4.09と低い水準となっている。

図表 1-5-10 年代別 健康のための行動と健康状態の満足度



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019年調査・2020年調査)

2. 「健康状態」の満足度を客観的に示す総合的な指標の作成(試行)

前節では、都道府県レベルで、「健康状態」の満足度と相関のある客観指標を複数確認することができ、「健康状態」の満足度が、平均寿命や生活習慣病による死亡者数などと多面的な相関関係を有していることがみてとれた。そこで、複数の指標を合成することで、「健康状態」の満足度を客観的に示す総合的な指標を作成することを試みることにした。

総合的指標の作成方法として、①単純合成法(各客観指標を標準化(ここでは z 値を算出)して合成)、②多変量解析法(主成分分析等による重みをつけて合成)の2つのパターンを採用した。

「健康状態」の満足度を表す客観指標としては、寿命、疾病、健康増進の面からとらえることとし、これらの面に対応する指標を選定した。なお、寿命に対応する指標として「平均余命(男女)、疾病に対応する指標として「生活習慣病による死亡者数」「通院者率」、健康増進に対応する指標として「スポーツの年間行動者率」を選定している。試算結果は以下のとおりである。

試算結果をみると、単純合成法、多変量解析法とも相関係数は 0.61 と他の分野に比べ非常に高くなっている。

(1) 選定指標

指標	単位	調査・統計	年	分野別満足度との相関	指標の意味	備考
平均余命(0歳・男)	年	生命表	2015	0.42	寿命	
平均余命(0歳・女)	年	生命表	2015	0.34	寿命	
生活習慣病による死亡者数(人口 10 万人当たり)	人	人口動態統計	2017	-0.57	疾病	統計でみる都道府県のすがたの掲載データを使用
通院者率(人口千人当たり)	人	国民生活基礎調査	2016	-0.50	疾病	
スポーツの年間行動者率(10 歳以上)	%	社会生活基本調査	2016	0.59	健康増進	

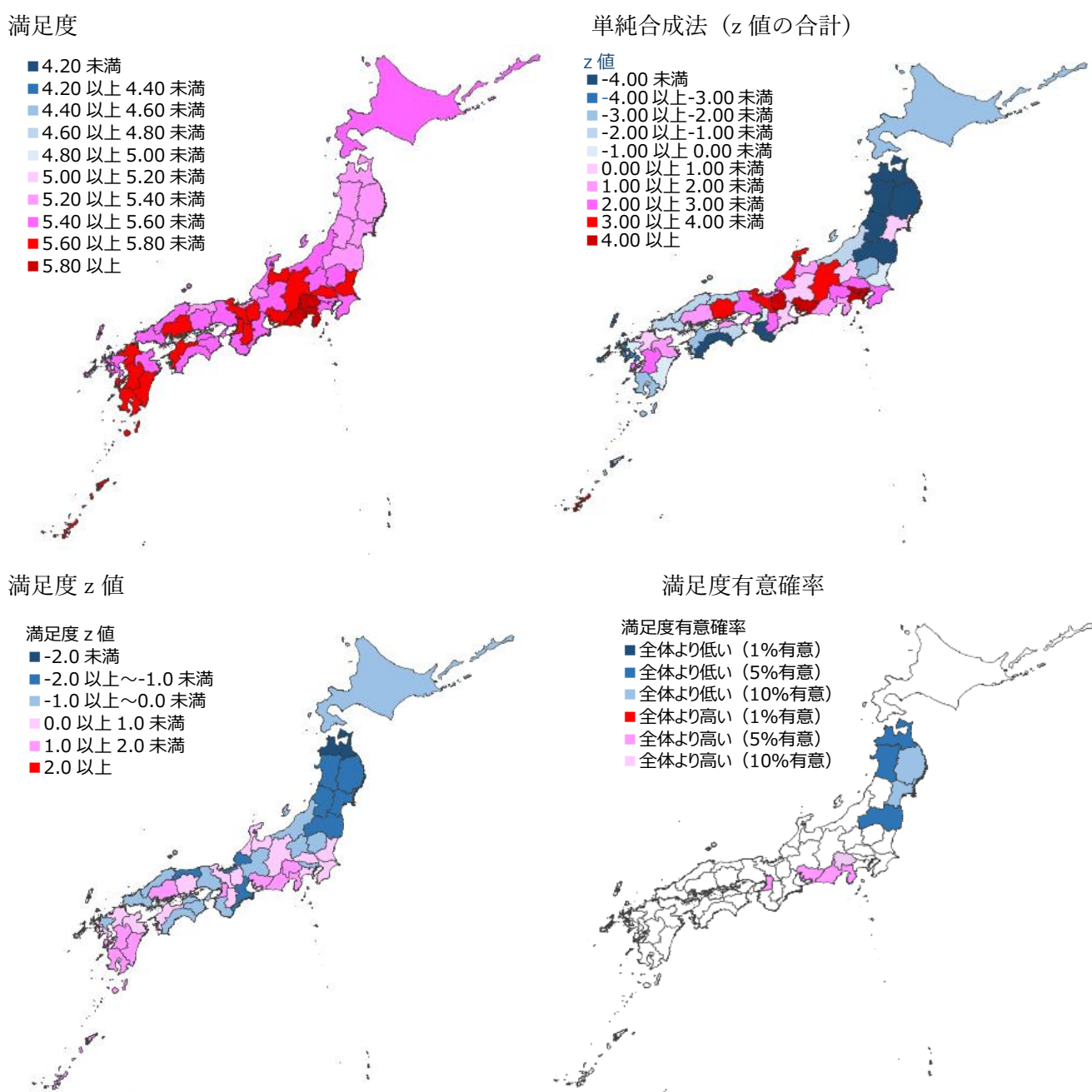
(2) 試算結果

客観指標	分野別満足度との相関係数	
	単純合成法	主成分分析第一主成分
①平均余命(0歳・男) +②平均余命(0歳・女) -③生活習慣病による死亡者数(人口 10 万人当たり) -④通院者率(人口千人当たり) +⑤スポーツの年間行動者率(10 歳以上)	0.61	0.61

(3) 都道府県地図

下の図は、満足度(満足度調査による計測値の平均値)、標準化した満足度(z 値)、単純合成法(各客観指標の z 値の合成)、満足度の有意確率を日本地図に色付けしたものである。満足度の地図をみると、「健康状態」の満足度は比較的高いことから、全体が濃い桃色であるとともに、赤みが強い地域もいくつかみられる。また、単純合成法と満足度の z 値との比較でも、概ね同系統の配色となっている。前項の相関係数はこのような状況を反映したものとなっている。加えて、各県の満足度を全体と比べた場合に、統計的有意水準を 10%とした場合でも9県であった。

図表 1-5-11 都道府県地図



VI 教育水準・教育環境

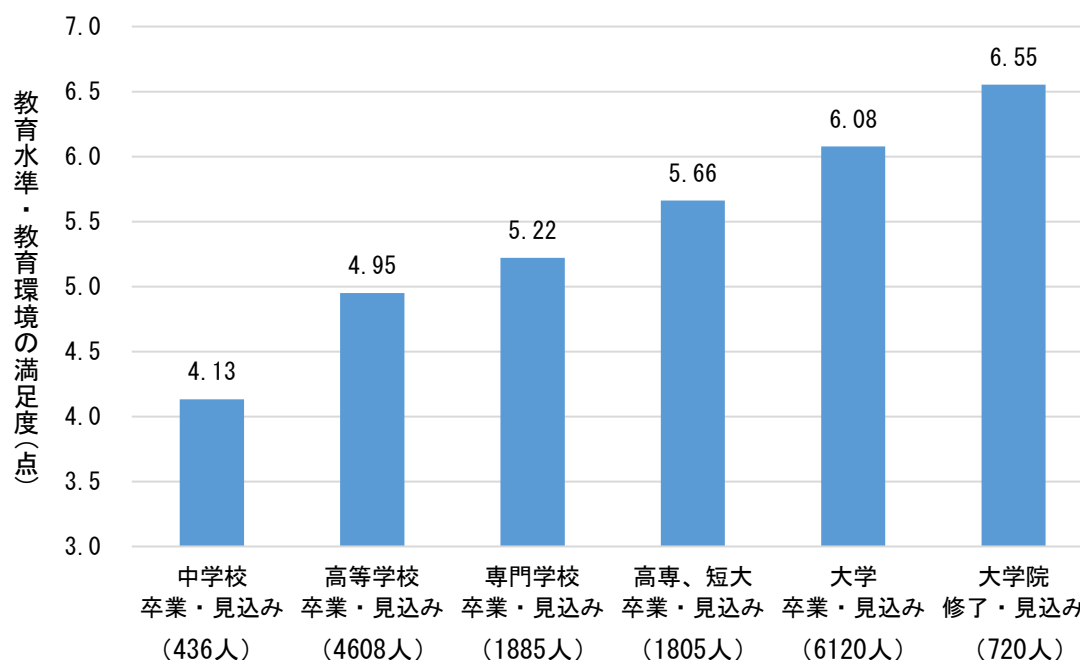
1. ダッシュボード指標の妥当性の検証

2019年7月に公表したダッシュボードでは、教育水準・教育環境に関する指標として「大学進学率」「学習到達度」「社会人入学者数」を採用した。ダッシュボード指標の妥当性を検証するため、これらの指標その他の関連指標について、「教育水準・教育環境」の満足度(平均値)の間の関係を分析していく。

①大学進学率

回答者の最終学歴と「教育水準・教育環境」の満足度との関係を見ると、最終学歴が高いほど満足度は高い傾向がみられる。中学校卒業・見込みの者の満足度は4.13であるのに対し、大学院修了・見込みの者の満足度は6.55と2ポイント以上の大きな差が生じている。

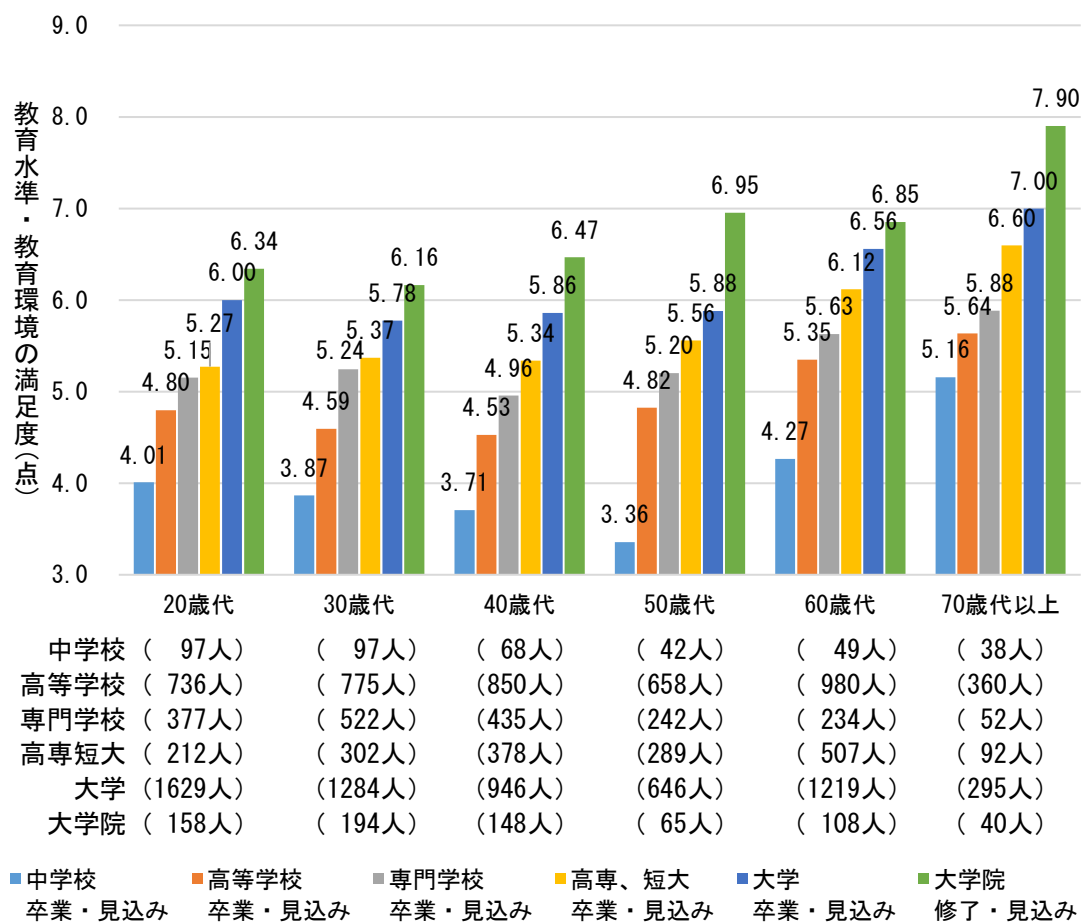
図表1-6-1 最終学歴と教育水準・教育環境の満足度



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査
(2019年調査・2020年調査)

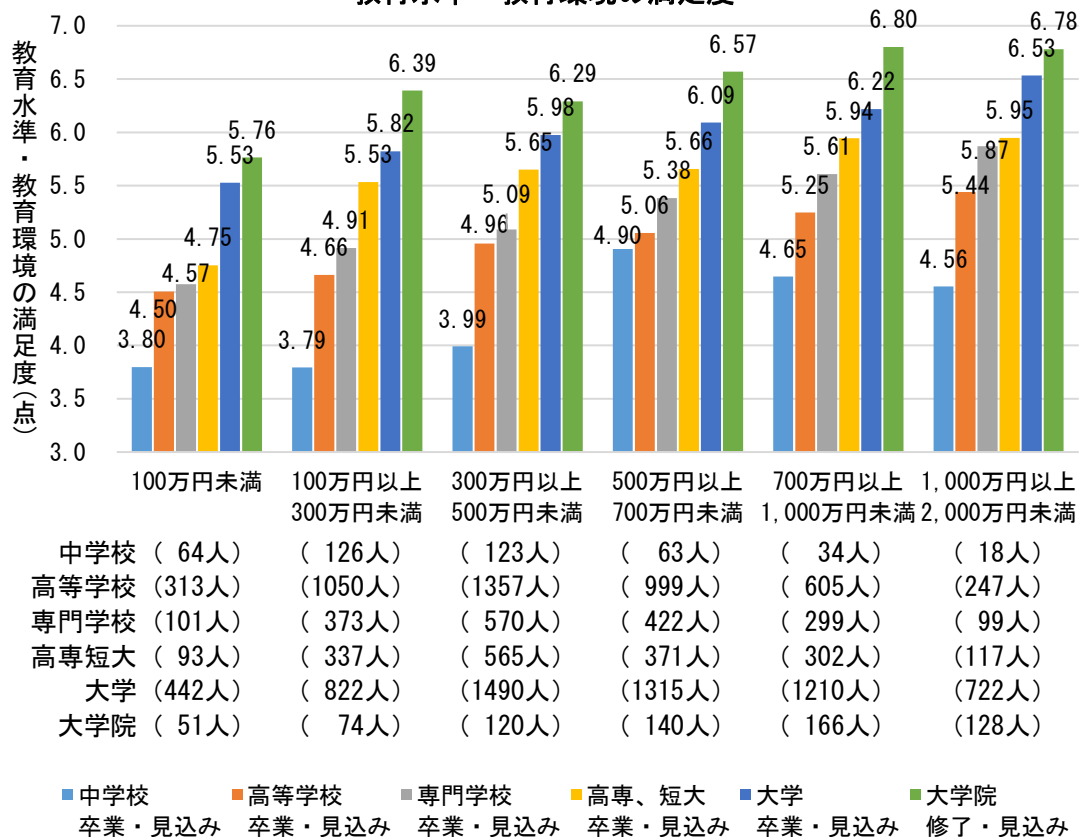
次に、年齢別に最終学歴と満足度との関係を見ると、すべての年代で右肩上がりの関係がみられる。また、世帯年収別との関係でも、すべての年収範囲において右肩上がりとなっており、同じ年収でも「教育水準・教育環境」の満足度は最終学歴が高いほど高くなっている。

図表 1-6-2 年齢別 最終学歴と教育水準・教育環境の満足度



(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査 (2019年調査・2020年調査)

図表 1-6-3 世帯年収別 最終学歴と
教育水準・教育環境の満足度



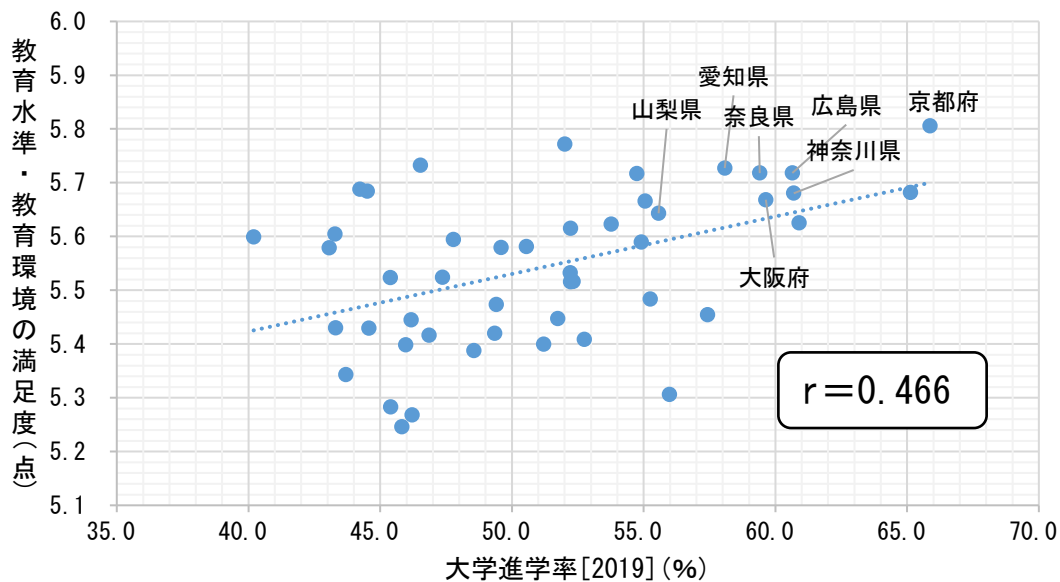
(出典) 内閣府 満足度・生活の質に関する調査
(2019年調査・2020年調査)

回答者の最終学歴と、「教育水準・教育環境」の満足度が相関していることは、上記の分析でみてとれた。では、今回の Web 調査で収集した満足度と一般統計で示される指標、例えば、都道府県ごとの大学進学率との間に同様な相関関係はあるのだろうか。ここでは、都道府県ごとに回答者の「教育水準・教育環境」の満足度の平均値を算出し、それと一般統計から得られた都道府県別の大学進学率等との関係についてみていくことにする。

図表1-6-4は、都道府県別の「教育水準・教育環境」の満足度と大学進学率との関係をあらわしており、進学率が高い都道府県ほど、満足度の平均値が高いことがみとれる。相関係数も 0.466 と非常に高い相関を示している。

以上の分析は、「大学進学率」が「教育水準・教育環境」の満足度をあらわす指標群(ダッシュボード)の一つとして有効であることを示唆する。

図表 1-6-4 都道府県別 教育水準・教育環境の満足度と
大学進学率の相関



(出典) 文部科学省 学校基本調査

内閣府 満足度・生活の質に関する調査

(2019年調査・2020年調査)

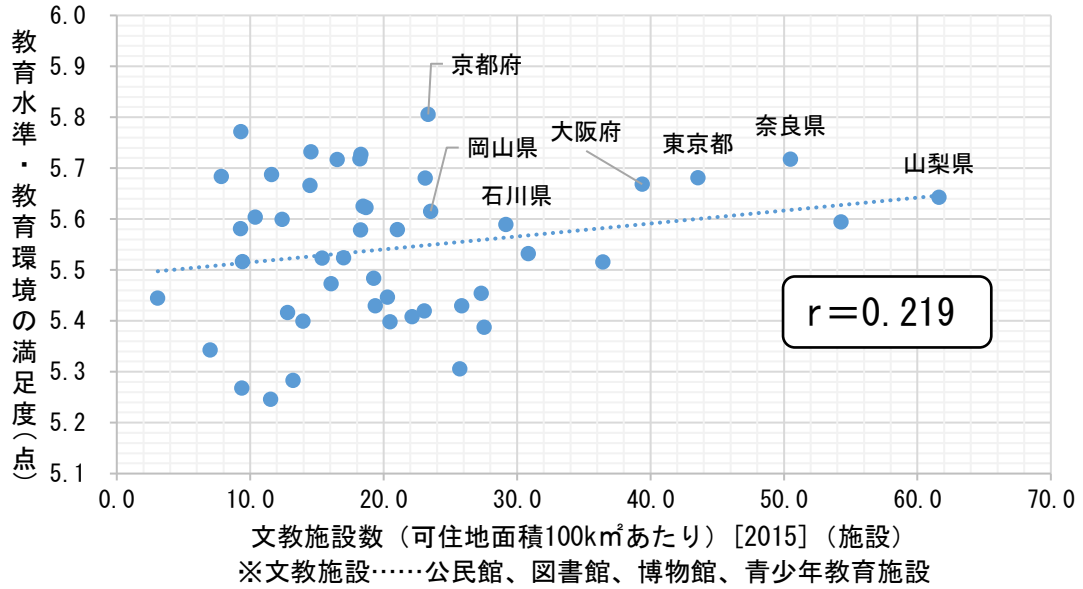
②その他の指標

ダッシュボードで採用している「学習到達度(PISA)」は、読み書き計算といった認知能力のテストに偏りがちであり、対象年齢が限られており主観的満足度との関係を確認するのが困難であるという短所はある。しかし、教育に関する数少ないアウトカム指標の1つであり、OECD「幸福度白書 2020」のヘッドライン指標や「より良い暮らし指標」においても採用されており、今回変更しないこととする。

もう1つのダッシュボード採用指標は「社会人入学者数」である。これは 2019 年調査において、「教育水準・教育環境」の満足度に大きく影響しているものとして、「社会人向けの教養講座・専門講座の使いやすさ(市民講座・大学・大学院等)」との回答が上位(3位)であったことから採用されたものであり、適切な代替指標も無いことから、今回変更しないこととする。

なお、社会人向けの教養講座と直接関係するものではないが、文教施設数の多さも「教育水準・教育環境」の満足度と関係しうる。この指標について都道府県別にみると、可住地面積当たりの文教施設数が多い都道府県の方が、「教育水準・教育環境」の満足度が高いという緩やかな相関が確認された。

図表 1-6-5 都道府県別 教育水準・教育環境の満足度と
文教施設数の相関



(出典) 文部科学省 社会教育調査

内閣府 満足度・生活の質に関する調査

(2019年調査・2020年調査)

2. 「教育水準・教育環境」の満足度を客観的に示す総合的な指標の作成(試行)

前節では、都道府県レベルで、「教育水準・教育環境」の満足度と相関のある客観指標を複数確認することができ、「教育水準・教育環境」の満足度が、大学進学率や文教施設数と多面的な相関関係を有していることがみてとれた。このように、単一の客観指標では、「教育水準・教育環境」の満足度を十分に表すことにはできないことから、ここでは、複数の指標を合成することで、「教育水準・教育環境」の満足度を客観的に示す総合的な指標を作成することを試みることにした。

総合的指標の作成方法として、①単純合成法(各客観指標を標準化(ここでは z 値を算出)して合成)、②多変量解析法(主成分分析等による重みをつけて合成)の2つのパターンを採用した。

客観指標としては、試行した結果、大学進学率、大学収容力指数及び文教施設数とした。試算結果は以下のとおりである。

試算結果をみると、単純合成法、多変量解析法とも相関係数は 0.5 程度と高い値となっている。

(1) 選定指標

指標	単位	調査・統計	年	分野別満足度との相関	指標の意味	備考
大学進学率	%	学校基本調査	2019	0.47	学歴	
大学収容力指数			2018	0.47	高等教育・リカレント教育へのアクセス	統計でみる都道府県のすがたの掲載データを使用
文教施設数(公民館・図書館・博物館・青少年教育施設)(可住地 100k m ² 当たり)	施設	社会教育調査	2015	0.22	生涯学習環境	

(2) 試算結果

客観指標	分野別満足度との相関係数	
	単純合成法	主成分分析第一主成分
①大学進学率 +②大学収容力指数 +③文教施設数(公民館・図書館・博物館・青少年教育施設)(可住地 100k m ² 当たり)	0.49	0.50

(3) 都道府県地図

下の図は、満足度(満足度調査による計測値の平均値)、標準化した満足度(z 値)、単純合成法(各客観指標の z 値の合成)、満足度の有意確率を日本地図に色付けしたものである。満足度の地図をみると、「教育水準・教育環境」の満足度は比較的高いことから、全体が濃い桃色であるとともに、太平洋沿岸に赤色が強い帯がみとれる。また、単純合成法と満足度の z 値との比較では、同系統の配色が多いものの、一部、異なる配色の県がみられた。前項の相関係数はこのような状況を反映したものとなっている。加えて、各県の満足度を全体と比べた場合に、統計的有意水準を 10%とした場合でも8県であった。

図表 1-6-6 都道府県地図

